

～図書館だより

R7年5月号

司書 宮本由紀 のお薦め本

「赤毛のアン」シリーズ モンゴメリ作 松本侑子訳 文春文庫

「赤毛のアン」は児童文学の古典です。1979年のアニメ『赤毛のアン』は今もファンが多く、現在、アニメ『アン・シャーリー』が放映中です。翻訳者の松本さんは『赤毛のアンに隠されたシェイクスピア』（集英社）という本で、『赤毛のアン』に隠されているシェイクスピアや詩の意味を教えてください。

『赤毛のアン』シリーズのうち、次の4冊を紹介します。

『赤毛のアン』 内気な兄マシューと孤独な妹マリラが、思わぬアクシデントから、孤児のアンをひきとります。想像力が豊かで、失敗も多いけれど愛情豊かなアンは幸せになり、自分も二人を幸せにします。不幸におそわれた時、アンは「私は、もう十六歳半なのよ」と断言して自分の決めた道を進みます。

『アンの青春』 アンは学校の先生になります。

『アンの愛情』 大学に進学したアンは、親友から求婚されますが、夢見た「うるわしの王子」のような男性と出会います。さてアンが結婚するのは？

『風柳荘（ウィンディ・ウィローズ）のアン』 アンはある町の校長先生になりますが町の有力者一族が、何かにつけてアンの足を引っ張ります。けれども、意外な出来事

のおかげで一族はアンの友人になるのでした。

心の気高いアンはいつもひとを思いやり、人々を幸せにします。ロマンティックで涙あり、かと思えばユーモアと皮肉で笑えるシリーズです。どの作品でもぜひ一度読んでみてください！



～新刊のおすすめ本～

『ヨチヨチ父』

ヨシタケシンスケ

絵本作家ヨシタケシンスケさんが自分の体験をもとに、子育てについてかわいいイラストつきで語ってくれます。

こどもの誕生と同時に誕生するのが、「お父さん」。

「お母さんお父さんを大切にしよう」という気持ちになれますよ。

『あえのがたり』

加藤シゲアキほか

能登半島を応援するチャリティー企画（印税や売り上げを被災地に寄付）の短編集です。「あえ」は能登半島の言葉で、意味は「おもてなし」。「おもてなし」をテーマに10人の作家さんが短編小説を書きました。テーマは同じでも内容は十人十色です。

「そこをみあげる」（加藤シゲアキ）

「うらあり」（朝井リョウ）

「予約者のいないケーキ」（今村昌弘）

「溶姫の赤門」（蟬谷めぐみ）

「天使の足跡」（荒木あかね）

「カレーパーティー」（麻布競馬場）

「エデンの東」（小川哲）

「夢見の太郎」（今村翔吾）

「限界遠藤のおもてなしチャレンジ」（柚木麻子）

「人新世爆発に関する最初の報告」（佐藤究）



熊野青藍高等学校 校歌の作詞家

及川 眠子（ネコ）さんから寄贈

※猫から目線

※ネコの手も貸したい

※誰かが私をきらいでも

※ネコイズム（CD）